



SINCE 1901 感謝と希望を
日本女子大学・創立100周年

図書館だより

目次

西生田図書館開館十周年を迎えて 「今、学生にすすめる本」特集(その6)	出淵 敬子 1
佐藤 和人	松梨久仁子 2
土屋 莊次	伊藤 寿和
鈴木 賢次	藤原 浩史 3
本間 道子	服部 幸雄
西生田図書館 10 周年	
西生田図書館の 10 年	永富 尚子 4
居心地のいい空間	川原 ゆり 6
西生田図書館 10 周年によせて	藤枝 充子
悲願の 19 時閉館	吉原三紀子 7
西生田キャンパスの思い出	赤羽 美紀
いまの図書館(写真)	8
日本女子大学西生田図書館関係略年表	9
平成 12 年度夏期スクーリング開館について	鈴木 学 12



西生田図書館開館十周年を迎えて

出淵 敬子

1990年4月、本学人間社会学部の開学と同時に西生田図書館が開館されて以来、早や10年の月日が経ち、今年が開館十周年を祝う年となった。図書館では多くの館員が、この時を記念して、十年間の歩みを振り返り、今後の糧としたい気持ちに駆られている。『図書館だより』本号も、そういう気持ちの一端を表すべく編集されたものである。この機会に十年の歴史と現状を再考して見るのも無駄ではあるまい。詳しくは本号の記事や、毎年刊行されている『図書館年次報告』をごらん頂きたい。

西生田図書館はしばしば目白図書館とは別の独立した図書館として捉えられがちだが、これは同館設立当時の記録に照らし合わせると間違った考え方である。西生田図書館と目白図書館は日本女子大学図書館というひとつの根から地上に姿をあらわした2本の木のようなもので、目白の方が古い大木とすれば、西生田は勢いよく葉を繁らせた若木といえよう。両者は地中深く根を延ばし、ネットワークでつながっている。西生田の利用者にも、目白の利用者にも、均質なサービスを提供したいというのが、私たちの根本方針であり、図書館で日々熱意をもって仕事をしている図書館員たちの目標である。現在、活みなぎる若い図書館員と課長さんの8名が、西生田図書館を運営している。現在、本学蔵書総数62万冊のうち、12万冊が西生田に置かれ、年々増加している。図書資料購入予算は、目白と西生田がおよそ2対1の割合となっている。

最近のインターネットによる図書館資料検索の進歩はすばらしい。遠く外国にある雑誌を検索して、読みたいページを開いて読むことさえできるようになりつつある。次の二十周年には、このようなこともあたりまえのことになるかもしれない。そうすれば、西生田と目白の距離などますます縮まって、日本女子大学図書館としての一体感が強まることだろう。

西生田図書館にこの十年間におのずと個性ができて来たのも喜ぶべきことである。出発当時から、カード目録でなくオンラインのネットワークによる検索システムを導入し、蔵書の集中管理方式を徹底させたことは、専門分野を越えた交流をすばやく行いやすくしているのではないかと思う。また社会科学系はいうに及ばず、美術・音楽・写真・舞踊など芸術ジャンルの蔵書が豊富なことも特色である。特筆すべきは、人間社会学部の各専攻の修士・博士論文の大部分が装丁を施され図書館に保存されていることだ。これらは将来研究の向上におおいに役立ち、大きな財産となるだろうと期待される。

(図書館長・英文学教授)

「今、学生にすすめる本」特集（その6）

佐藤和人（食物学科教授）

「少しはかっこつけて難しそうな本をみつくりようか」とも思ったが止めにした。まず**養老孟司氏**の『異見あり：脳からみた世紀末』（文藝春秋社，2000年）を紹介する。著者は脳を専門とする解剖学者であるが、東大医学部の教授職に早々と見切りをつけ活動の場を文学的領域へひろげている。日常的な話題から「個性とは何か」といった命題まで好奇心旺盛に「つべこべと」述べている。ともすると若者に求められがちなアイデンティティについても「どの個人も、宇宙に全く一人しかいない、かけがえのない存在である。あえて個性をいうのであれば、それだけで十分ではないか」という。**立花隆氏**の『脳を鍛える 東大講義人間の現在』（新潮社，2000年）は講義録であり、知とは何か、いかに学ぶべきかなど独自の視点から鋭く説いている。田中角栄研究から脳サイエンスまで著者の飽くなく探究心とエネルギーは驚くほどである。どちらも表現型は異なっているが、知を求め、自己流の異見をもつ楽しさと重要性を教えてくれる本である。

松梨久仁子（被服学科助手）

神谷美恵子著『生きがいについて』みすず書房 1966年

著者は20年前に亡くなった方ですが、ハンセン病に苦しむ患者の精神治療に尽力された精神科医です。国立療養所の長島愛生園で隔離、収容されている患者と接しているうち、絶望的な状況の中でも一部の患者の中に生きがいを感じる人がいることに気がつき、それがこの本を書く動機になったとあります。「生きがい感」の最も基本的要素は「生存充実感」であるとし、生きがい感についてわかりやすく述べられています。私を含め皆さんもただ漠然と過ごしてしまう毎日の多いと思いますが、この本をきっかけに生きがいについて改めて考えてみてはいかがでしょうか。

また著者は家庭人として医者や教育者として莫大な仕事をこなされた超人ですが、その考え方はやさしく慈愛に満ち、それを実践してきた方です。著者の生涯、生き方を知るだけでも大変感動できると思います。

土屋莊次（物質生物科学科教授）

柳澤桂子著『二重らせんの私』ハヤカワ・ノンフィクション文庫 1998年

著者は、DNAの遺伝暗号が解読された1960年代にコロンビア大学に大学院学生として在籍した。その時経験した厳しいトレーニング、烈しい競争、また、世界トップクラスの研究室の雰囲気などから、「生命とは何か」を問いつづける生命科学者への成長の過程を学ぶことができる。

立花隆著『脳を鍛える 東大講義人間の現在』新潮社 2000年

ベルリンの壁崩壊以降世界の政治や経済の大変動が起こっている。この大変動を理解するためには、人間、生物、物質、社会のすべてにおいてパラダイムの大転換が進んだ今世紀後半の学問状況を学ぶ必要がある。したがって、この本に出て来る話題は、人文科学、社会科学、自然科学のすべてにわたっており、それらが著者の頭の中にどう織り込まれて「人間の現在」を見ようとしているかを語ってくれる。

伊藤寿和（史学科助教授）

『戸田芳実の道 追悼思慕』戸田芳実氏追悼文集編集委員会編 同刊行会発行 1992年

『竹内理三 人と学問』竹内理三人と学問編集委員会編 東京堂出版 1998年

日々迷いながら拙い調査・研究を続けていると、時に、すぐれた研究者、すぐれた論文に出会うことがあります。そのような時は、研究者冥利に尽きる思いがします。上記のお二人は、共に日本史の分野ですぐれた研究を進められ、戸田氏の『日本領主制成立史の研究』と竹内氏の『寺領荘園の研究』は、院生のころから迷うたびに繙いてきた導きの糸でもあります。戸田氏とは、私が関西在住の折りに一度だけ、小さな研究会にて、ご説明いただきながら近江の坂本から歩いて比叡山に登り、また歩いて八瀬まで下りました。本当に、一期一会の出会いでありました。竹内氏には直接お目にかかる縁を得ませんでした。週に何度も『寧楽遺文』『平安遺文』『鎌倉遺文』を引くたびに、独力でこれらの膨大な史料集を編纂されたご苦労に深く感謝しながら利用させていただいています。両先生の追悼文集に寄せられた諸先生方の小文には、研究と教育と人生のエッセンスが、溢れんばかりにぎっしりと詰まっています。

鈴木賢次 (住居学科教授)

ヴィクトル・ユゴー著 『ノートルダム・ド・パリ』 岩波文庫(上・中・下巻) 1956～1957年
これまで、書物によって堪能できた虚構の世界は数知れないが、鮮明に思い起されるものは少ない。そのなかでは、この作品は別格だ。15・16世紀ごろのパリの街、大聖堂、人々の生活がドラマチックに描かれている。物語には、冒険、ロマンス、ミステリー、怪奇幻想、歴史、あらゆるジャンルが詰まっている。最近、ウォルト・ディズニーのアニメ『ノートルダムの鐘』になったが、ストーリーは改変されていて、画面が美しすぎる。現在、旧訳しかなく、絶版状態であることが不思議なくらいであるが、まもなく新訳が出版されるという。書物が喚起する想像力を磨く上でも、やはり小説の方を読んでもらいたい。

藤原浩史 (日本文学科助教授)

森博達著 『日本書紀の謎を解く 述作者は誰か』 中公新書 1999年
『日本書紀』は日本初の正史であるが、漢文の書物である。編者・著者が誰か、何語で書いたか、実は謎だらけ。どのように読むべきか、本当のところは未だによくわからない。

学生時代の筆者は、この書の万葉仮名の用字を調査することから始める。ごく単純かつ機械的な作業である。しかし、この結果、日本語の音を写すのに、唐代長安の発音に基づく巻と、それによらない巻があることを発見するのである。そして、文字だけでなく、語法・文章にも、違いがあり、『日本書紀』が、中国人編者と日本人編者の分担作業であることを見出したのである。

研究成果として画期的なのは言うまでもないが、この本を学生に勧めるのはそれだけではない。研究者を志望しながら芽の出ない一人の学生が、自分でも価値のわからない作業に悩みつつ、執念深く取り組むことによって開花するプロセスが、心境にいたるまで正直に書いてあるのである。学問を志す人への「心の本」として好いものである。

本間道子 (心理学科教授)

山岸俊男著 『安心社会から信頼社会へ 日本型システムの行方』 中公新書 1999年
“情けは人のためならず”(最近のこの意味を誤解する向きもあるようですが)、と考える社会は人々が信頼関係にあることを前提としています。著者はこれまでの日本は他人を信頼することで有利な社会を作ってきたのではなく、他人を信頼しないことが有利な結果を生み出した社会であったといえます。“安心の社会”です。こう言えばきっと驚かれるでしょう。日本人の特性として和を尊ぶ、とか集団主義といわれてきたのですから。この著書はこれまでの常識を覆し、われわれのこれまで構築された社会システムを鮮やかに解き明かし、これからの社会のあり方(結局は人と人との関係性)を示唆してくれます。このような知見が著者の直感や単なる随想でなく、科学的に明らかにされたことに大なる意味があります。より深くこの論理を知りたくなったらぜひ同じ著者の『**信頼の構造**』(東大出版会、1998年)をお読みください。精緻な社会心理学の研究手法から社会システムと個人のダイナミックなかかわりを解きほぐしてくれます。その道筋に心理学の面白さを味わってくれたらとおもいます。

服部幸雄 (文化学科教授)

河合隼雄著 『日本文化のゆくえ』 岩波書店 2000年
日本文化のゆくえを考えることはすぐれて現代的な課題である。グローバリゼーションという声の高まりの中で、これからの日本人はどう生きるべきか、日本文化はどうなっていくのだろうか。最近年における日本社会の急速で激しい変化は、家族、少年非行、老人問題、仕事、遊び、死、教育、異文化体験、ボランティアにかかわること、科学技術、医療、宗教、芸術などさまざまな課題を惹起した。これらの諸分野について、真剣な考察が迫られている。著者はそれぞれの課題に即して深い洞察を加えた。著者がC.G.ユングの分析心理学の学統を受ける臨床心理学者であり、多くのすぐれた著述があるのは周知のところだろう。氏の該博な知識、豊かな発想、柔軟で弾力性に富んだ思考法から学ぶ点が多く、われわれの「知」を刺戟してやまない本である。**尾藤正英著 『日本文化の歴史』**(岩波新書、2000年)は、日本人の生活や思考の様式の全体につき、文化に現れた民族としての個性・特性に注目し、歴史的視点からアプローチしている。河合氏の著書と併せ読み、日本文化の現在と将来についての認識と思索を深めて欲しい。

西生田図書館10周年

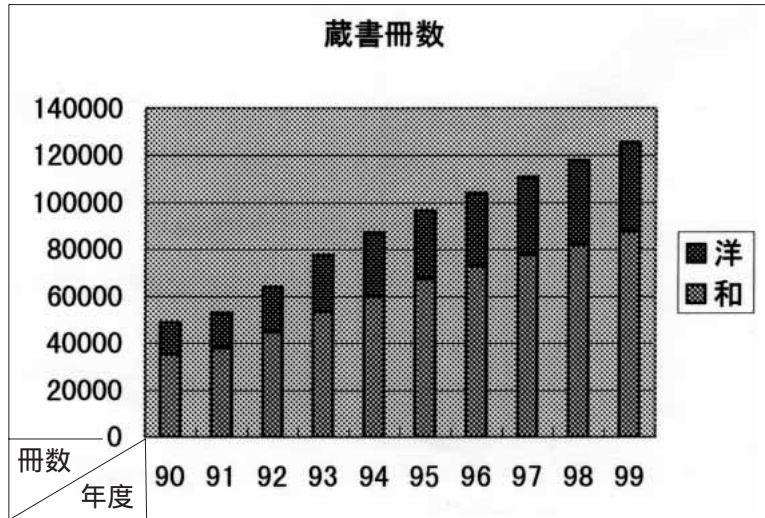
西生田図書館の10年

永富 尚子

西生田図書館は人間社会学部創設に伴い、1990（平成2）年4月10日に開館されました。目白・西生田、どちらの学生・教職員にも均質な情報提供サービスを実現させ、一つの大学図書館として有機的に機能させることを基本構想に、コンピュータ化、ネットワーク化を行い情報化時代の先駆けとなる新しい図書館としてスタートしました。当初は1学年のみで蔵書数約3万8千冊、雑誌500種、館員3名、夜間開館（～19:00）週1回の形で、資料も施設設備もこれからの状況でした。

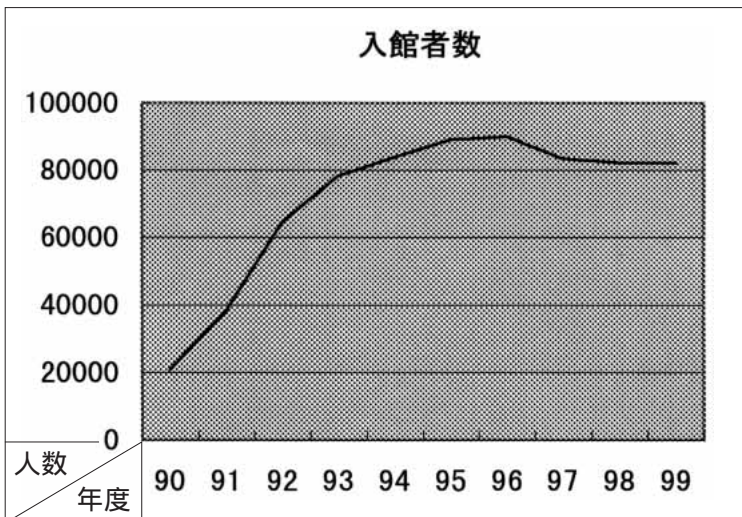
しかしながら、目白と同じに図書を書架から直接自由に手に取って閲覧、貸出できる全開架方式を採用し、研究室のご理解と協力を

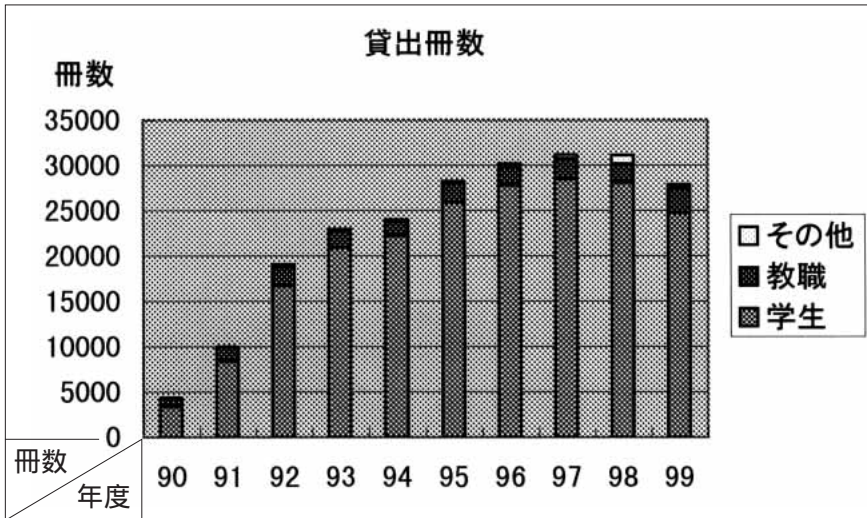
得てキャンパス内の資料を図書館に集めて蔵書構成の統一化を図り、情報資源の共同利用など利用者への効率的な資料提供を行うため、図書の集中管理方法を採用しました。また、図書館に対する希望や推薦図書を出していただいたり、教職員の方々の『人間社会学部』を『西生田図書館』をより



充実させて行こうという意気込みが感じられました。1993（平成5）年は完成年度にあたり4学年が揃い、利用者数が年間78311人、一日平均643人、試験期の1日延人数は900人と著しく増加しました。

10年を経た現在、蔵書約13万冊、雑誌3千種と充実してきました。がそれと同時に書架スペースが不足する問題も…。開





館時間についても学生，教職員の動向と館員数を考慮し，段階を踏みながら少しずつ延長してきました。今年度館員8名となり，後期よりようやく週5回（月～金）夜間開館を実施できるようになりました。入館者数，貸出冊数をみると，学生数の増加に伴い上昇を続けていましたがここ1，2年は落ち着いているようです。学生さんの本離れ，文献での利用とパソコンの普及によるものかと思われま。

情報環境の整備についても，大学図書館間のネットワークに参加，1996（平成8）年には学内LAN及びインターネットに接続，情報の発信として図書館ホームページを開設，学内だけではなくどこからでも開館時間に拘束されずに最新の情報サービスの提供が可能となりました。館内には，オンライン情報や雑誌記事索引（国立国会図書館所蔵），他大学の所蔵目録などの外部データベースも検索できるインターネット対応のWeb-OPACを設置，電子図書館としての機能を備えております。

館内の様子を見ると，OPACコーナーで検索をしている学生さんを大勢見かけますが，書架を見ていたり，閲覧席で本を広げながら熱心に勉強している姿もよくみえます。コンピュータ化され便利になり，求める情報や資料もすぐに探せるようになりましたが，書架で求める本の近辺にも思いがけない本を見つけられる，そういう時間の過ごせる，利用者にとって親しみのある利用し易い図書館でもありたいと思います。人数的制約のなかで利用者の要請に応えようと試行錯誤の10年間でした。

今後の課題として，学科構成に応じた特色のある蔵書構成の構築，すぐ満杯になるであろう書架スペース対策，相互利用，分担収集，紙媒体資料に加えてこれからますます多様化・増大化する電子資料の収集・提供への対応，インターネットをどのように業務に活用していくかなどなど。

21世紀にむけて，これからもなお一層時代の変化，利用者のニーズに対応できる図書館を目指してさらなる充実と発展を着実に進めて行きたいと考えております。

（西生田図書館課長）



西生田図書館 10周年

居心地のいい空間

川原 ゆり

10年前の開館時には、図書の数が足りない、開館の日時が少ないという声がありましたが、当初から私はこの図書館が好きでした。何故と問われれば、大変健康的だからです。まずは環境が良い。講義棟と研究棟の中心に在って、いつでもとびこめる。高い階段を登って恭しくドアを押すこともなく、図書館に有りがちな気負った雰囲気が皆無。明るく伸び伸びとして心身が寛ぐ。開架式の図書は、大いに専門外の好奇心を煽ってくれる。そして何よりも、館員の皆さんが温かく親切。こうした全てが、健康的な知の場としての親しみある存在となっているのです。

図書館も10才となり、これからは持てる物を活用し、機能を高めて自立への道を歩んで欲しいものです。外との密接な交流を持ちつつも、西生田地区のニーズにみあった独自の企画や、多様な情報の発信基地となり、私たちの愛すべき図書館として育つことを願っています。

(心理学科教授)

西生田図書館 10周年によせて

藤枝 充子

学部入学以来10年間、西生田図書館を利用し、館員の方々に大変お世話になっております。

大学図書館というものは、大学の歴史そのものであり、生命であると考えております。本学は、創立100周年の長い歴史を持っています。そして、その歴史は、貴重な活字資料としての蔵書の中に反映されています。これからは、活字資料のみでなく、様々な新しいメディアがさらに発達するものと思われま。そして、それは、温故知新の精神の大切さを再確認させることでしょう。先達の方々の足跡をいかに学び、いかなる社会を築いていくのか。その中で、多様な形態をとる情報の整理者・保管者・提供者としての大学図書館の役割は、ますます重要になると考えています。

西生田図書館が、現代そして次世代の人々に有効に活用され、これまで以上に充実した大学の中心となり、大学の活力源となることを心から願っております。

(教育学科非常勤助手)



ブラウジングコーナー



3階閲覧室

悲願の19時開館

吉原 三紀子

人間社会学部10周年おめでとうございます。西生田図書館も10歳おめでとう。

10年間で思い出すのはやはり図書館利用者というヒトの顔、姿でしょう。社会人入学一期生の「勉強の仕方がどうにもわからない」との真剣な面持ち、就職のこと将来のことで頭がいっぱいで涙を浮かべながら卒論の相談に来た4年生、図書館だよりへの寄稿を最終講義に使用して下さった先生、わき目もふらず特定の書架へ急ぐ常連の先生方、目白図書館の文献を大量に取り寄せていた附属高校理系の先生、昼休みと17時以降に研究活動をしている職員、年に一回学科の会のおりに必ず顔を出してくれる卒業生、新入生オリエンテーションで浴びる1年生のきらきらと熱意に輝く瞳、図書館を取材に来た附属中学新聞委員会の生徒が大学生となって再び図書館に現れた驚き、折目正しい管理事務室の方、熱心な西生田生涯学習センター受講者の方、最近では早稲田大学生、などなど。

そして木曜日のみ、開館時間が17時20分までとは知らずせっかく来たのにショックを受けたことのある方、朗報です。今年度後期より月曜日から金曜日は19時までで開館します（土曜日は15時まで。授業のない日は掲示を見てください）。19時までとなった初の木曜日9月28日は18時30分の時点で6名在館でした。前後の日が10名から12名なのでやや少ない気もしますが、午後授業のない曜日、認知もこれからということを考えればまずまず、ということでしょう。

この10年間、一週間の中で19時までの曜日と17時20分までの曜日が混在していました。年度によって曜日を取り替えたり、19時までの曜日を増やしたり、試験前や試験期のみ19時までに延期したり、試行錯誤を重ねました。

今回やっと、「授業のある日は月曜日から金曜日まで19時」とわかりやすくなりました。10年かかりましたが、20世紀に間に合いました。これからも西生田図書館をどうぞよろしく。

（館員・西生田図書館）

西生田キャンパスの思い出

赤羽 美紀

はじめて西生田キャンパスを訪れたのは、もう20年も前のことになる。中高合同の新しい校舎が建ったばかりの頃で、現在九十年館がある辺りには高等学校の旧校舎が残っていた。暗くなってからは歩くのも怖いようだったこの辺りに、人間社会学部の立派なキャンパスが出現したのは10年前のこと。西生田生涯学習センターや西生田成瀬講堂など新しい建物が次々完成し、変わりゆくキャンパスをながめながら西生田図書館の館員として過ごした日々。中学生の頃「出るらしい」という噂は聞いたが遭遇したことのなかったタヌキに、数年前ようやく出会った。目白に戻った今も、若葉の頃の木漏れ日やコジュケイの鳴声に、西生田キャンパスの日々を思い出す。

本が少なく「向こう側が見える」と言われた図書館の書架も今は満杯。開設時の倍以上の蔵書を擁す。これからの10年が、図書館により変化をもたらすことを願いつつ。（館員・図書整理係）



事務室



西生田図書館10周年

いまの図書館



図書館入口



4階閲覧室



カウンター



OPACコーナー



2階参考書架



AVコーナー

日本女子大学西生田図書館関係略年表(1989.4 ~ 2000.9)

年	事 項
1989 (平成元)	4.10 西生田図書館家具工場見学(丸善,山口木材工芸)。 4.14 新学部第2次申請に関する打ち合わせ会へ事務主任出席(6/13,7/3へ継続)。 4.17 申請図書準備進捗状況報告会へ事務主任出席。 4.19 分館準備委員会第1回:移管図書のデータ入力についてほか,閲覧管理システム開発開始。 4.25 分館建築設計図承認。 4.28 新学部開設時新規購入洋書搬入開始。CALIS契約締結。 5.8 新学部開設時新規購入洋書搬入開始。 5.19 新学部開設時和書・洋書移管図書リスト作成終了。 5.29 新学部新規購入和書検収(30日迄)。 6.1 新学部図書購入契約,コンピュータ配線工事(3日迄)。 6.19 バーコードラベル貼付委託業務開始。 6.26 ホストコンピュータ搬入(目白)(27日据付工事)。 6.28 新学部新規購入和書検収,中国書300冊搬入。 7.11 ホスト環境設定。 7.20 移管図書搬出開始(22日迄)。 8.21 実地調査書類に関する打ち合わせ会へ事務主任出席。 9.4 実地調査のための図書・雑誌排架開始(6日迄,9日点検)。 9.19 分館準備委員会第8回:実地調査関連事項 10.4 人間社会学部設置に関わる実地調査へ館長,事務主任出席(11日も)。 10.18 実地調査用図書引き上げ作業。 11.16 西生田図書館準備委員会発足第1回:西生田図書館の開館時間について(12/1へ継続) 11.21 新学部申請1年次図書・雑誌について教育学科との話し合い。11.22 学術情報センター NACSIS - IR 接続開始。 12.7 人間社会学部設置準備委員会との話し合い,館長・事務主任出席。
1990 (平成2)	2.2 西生田図書館ハードウェア設置に関する配線等下見(丸善,日本DEC)。 3.5 西生田図書館書架設置(10日迄)。 3.12 新規カウンター設置,西生田図書館図書排架準備。 3.13 西生田図書館図書排架(17日迄)。家具類視察(山口木材工芸)。 3.19 目白-西生田回線用モデム調整。 3.22 西生田図書館家具類搬入設置開始(24日迄)。 3.31 西生田図書館サイン工事開始。
	4.1 新図書館長佐藤進教授就任,上村美紗子事務主任。 4.6 JWULIS トータルシステム本稼働開始。 4.9 1年次オリエンテーション,スライド上映。 4.10 西生田図書館開設開館(9:30~)夜間開館週1回(木),1年次館内案内。1年次オリエンテーション 図書館長の話 佐藤館長。4.23 目白・西生田連絡委員会第1回:人間社会学部開設1年次図書の準備についてほか。5.30 人間社会学部教職課程認定打ち合わせ会へ事務主任出席。 6.2 「図書館だより」No.78 西生田図書館特集号発行。 6.22 人間社会学部開設1年次図書の購入準備作業。 7.24 夏季休暇中開館(8/24迄)。 8.21 人間社会学部教職課程認定申請書類原稿提出。神奈川県平成2年度私立大学等補助金申請のための「図書購入手業計画書」提出。8.27 人間社会学部教職課程認定申請書類原稿提出,神奈川県平成2年度私立大学等補助金申請のための「図書購入手業計画書」提出。人間社会学部開設1年次及び教職課程図書検収(29日迄)。
1991 (平成3)	1.24 人間社会学部開設時和書書誌データ入力訂正作業(図書整備センター)。 2.25 蔵書点検(和書3~5門 3/14迄)。 2.28 図書館についての要望書を文化学科より受理。 3.7 人間社会学部開設1年次及び教職課程図書排架(19日迄)。 3.26 西生田図書館へ平成3年度分移転備品資料類移送。 3.29 西生田図書館へA Vブース搬入設置。
	4.8 開館貸出開始。夜間開館週1回(水)。 4.9 1年次オリエンテーション スライド上映。 4.11 1年次オリエンテーション 図書館長の話 佐藤館長,西生田図書館案内。 7.22 夏季休暇中開館(8/24迄)。 12.11 社会福祉学科移転に伴う移管図書措置作業開始(13日迄)。12.12 日経テレコン接続契約締結。
1992 (平成4)	2.4 蔵書点検(和書0~7門,和参考図書0~7門 15日迄)。 2.24 旧人文学科申請移管図書の措置開始(3/5迄)。 3.31 佐藤進館長退任。
	4.1 新図書館長石川松太郎教授就任,上村美紗子事務主任。 4.7 開館,貸出開始。夜間開館週2回(月,木)。 4.8 1年次オリエンテーション スライド上映。 4.10 1年次オリエンテーション 図書館長の話 石川館長 西生田図書館案内。 5.21 学術情報センター接続検討会(以後5/29,6/2,6/5,6/16,7/2,7/10,7/13,10/30開催),社会福祉学科移転に伴う移管雑誌措置作業開始。7.22 夏季休暇中開館(8/21迄)。 10.12 国際基督教大学図書館へ見学。 10.15 学術情報センターへ見学。 11.2 丸善トランクルームへ見学。 11.19 教育学科移転に伴う移管雑誌措置作業開始。

1993 (平成5)	2.22 蔵書点検(和書8,9門,洋書全部,和洋O.S. 3/6迄) 3.18 臨時全体会:平成5年度西生田図書館の夜間開館について
1994 (平成6)	4.1 石川松太郎館長兼事務部長事務取扱,上村美紗子情報受入課長,田口令子情報サービス課長,永富尚子西生田図書館事務主任。図書館部課長制実施。 4.8 開館,貸出開始。夜間開館週3回(火,水,金) 1年次オリエンテーション スライド上映。 4.10 1年次オリエンテーション 図書館長の話 石川館長 西生田図書館案内。 6.18 人間社会学部に関する文部省実施調査出席(7/19も)。7.26 夏季休暇中開館(9/22迄)。 7.29 蔵書点検(和書0~4門 8/4迄)。 8.17 学術情報センター接続のための回線工事。 12.1 学術情報センター接続完了(3日接続試験完了通知受理)。 2.9 人間社会研究科認可申請実施調査(14日も)
1995 (平成7)	4.7 開館,貸出開始。夜間開館週4回(月~水,金) 4.8 1年次オリエンテーション スライド上映・西生田図書館案内。 4.11 1年次オリエンテーション 図書館長の話 石川館長。 4.14 目白・西生田相互利用の宅急便利用開始。 5.19 利用モード切替を学術情報センターへ報告。 6.23 学術情報センター用CALIS上プログラム作成。 7.25 蔵書点検(和書4~9門,和・洋参考図書全部 8/1迄) 7.27 閲覧用OPAC端末機増設(1台) 8.1 夏季休暇中開館(9/22迄) 9.19 放送大学ビデオ撮影。 1.27 目白・西生田便金曜日便開始される。 2.20 カナダライブラリーサポートプログラム認知される。 2.22 図書管理システム本稼働プログラムインストール。
1996 (平成8)	4.5 図書受入データを学術情報センターオンライン入力で開始。 4.7 開館,貸出開始。 4.8 1年次オリエンテーション スライド上映 西生田図書館案内。 4.11 1年次オリエンテーション 図書館長の話 西村館長。 5.30 OPAC用端末機を2階,3階に各1台増設。 6.19 ビデオ2台増設。 7.19 展示用パネル設置。 7.24 夏季休暇中開館(9/14迄)。 8.10 2階参考書架及びカウンター後部閲覧用書架増設。 9.16 蔵書点検(和書2,3門,和参考図書全部 21日迄)。 9.26 CD-ROM用端末機を2階に1台設置。 11.20 西生田生涯学習センター受講者の図書館利用開始。 3.6 国際基督教大学図書館システム見学。
1997 (平成9)	4.5 開館,貸出開始。 4.8 1年次オリエンテーション スライド上映・西生田図書館案内。 4.9 1年次オリエンテーション 図書館長の話 西村館長。 4.11 山本・成田ゼミ学生有志からの要望書受理。 5.28 貴重書用両扉書庫を設置。 7.1 展示パネルを2階玄関ホールに増設。 7.25 夏季休暇中開館(9/6迄) 7.26 西生田キャンパス夏季進学相談会施設見学図書館案内。 8.1 学内LAN接続用コンピュータケーブル工事。 8.5 3階,4階書架増設(8日迄)。 8.9 パソコン(DOS-V)3台搬入 JWULIS委員でsetup。 8.19 書架付机を2階参考コーナーに設置。 8.22 DECNIS接続環境変更。パソコン増設(OPAC,参考各1台,事務用2台) 8.29 VT端末機2台を目白から西生田へ移管。 9.3 左記2台をそれぞれ1階OPAC,2階カウンター用に増設。 9.10 CD-ROM用プリンター設置。 11.1 日本女子大学図書館ホームページ開設。
1997 (平成9)	2.28 平成9年度用「図書館のしおり」「利用案内」発行。 3.5 蔵書点検(和書0,1門,和・洋O.S.,洋参考図書,12日迄)
	4.5 開館,貸出開始。 4.8 1年次オリエンテーション スライド上映・西生田図書館案内。 4.9 1年次オリエンテーション 図書館長の話 西村館長。 5.8 人間社会学部学科長会より図書館への要望書受理,7/22回答書提出。 6.24 研究室図書の利用規則及び所在調査依頼状提出。附属高校生の施設見学図書館案内(27日迄) 7.22 電算課調達OA機器搬入及び目白よりVT端末機1台移管。 7.24 館内LANケーブル敷設工事(25日迄) 社会福祉学科依頼事項へ文書で回答。 7.25 夏季休暇中開館(9/16迄) 7.28 夏季進学相談会施設見学図書館案内。増設OA機器環境設定(日本DEC,29日迄) 7.29 OPAC用パソコン2台,事務用パソコン1台増設。 8.7 1階新聞室書架増設,2階入り口ブロックポストサイン貼付,3階窓面遮光フィルム貼付。 8.11 1,2階利用者用複写機を新機種に交換。8.21 3階窓面書架増設。 8.28 1階,3階増設書架の側板取り付け工事。 8.29 増設書架側板のサイン取り付け工事。9.17 蔵書点検(和書5~9門,洋書全部,和参考図書 24日迄) 10.8 図書館友の会図書館施設見学来館。 12.3 Pro Quest Direct及びERIインターネットサービスデモンストレーション(紀伊國屋書店) 12.12 新聞室用スツール5脚設置。

1998 (平成10)	<p>1.20 西生田学生自治会より図書館への要望書受理,27日回答書提出。 2.3 洋書用パソコン1台,プリンター及び置き台各1台設置。 2.28 平成10年度用「図書館利用のしおり」利用案内」発行。</p>
1999 (平成11)	<p>4.4 開館,貸出開始。 4.8 1年次オリエンテーション スライド上映・西生田図書館案内。 4.9 1年次オリエンテーション 図書館長の話 西村館長。 4.30 大学院等の設置に関わる履行状況報告書(図書整備状況)原稿提出。 5.11 OPAC講習会(6/3迄13回開催)。 5.22 品川女子学院附属高校西生田キャンパス施設見学図書館案内。 5.28 OPAC用VT端末機1台増設。 5.29 館内LANケーブル敷設工事。 6.8 電算課調達 OA機器搬入(6/8,6/11,6/23) <パソコン4台,プリンター及び置き台3台,CD-ROMチェンジャー5連,ネットワークプリンター1台,立式OAデスク3台>。 6.16 平成10年度機器増設用電源工事実施。 6.20 OPACコーナーレイアウト変更。 6.22 附属高校生施設見学西生田図書館案内(24日迄)。 6.23 CD-ROM用パソコン1台(プリンター付)増設,OA機器設置。 7.2 桜楓会中野支部西生田キャンパス見学図書館案内。 7.10 Z39.50 Gateway CAT サービス利用契約締結。 7.25 夏季進学相談会施設見学西生田図書館案内。 7.27 夏季休暇中開館(9/16迄) OA機器増設及び環境設定(COMPAQ) OPAC用パソコン2台,事務用パソコン1台設置。 7.31 鍵付き傘立て(30本収納用)を西生田図書館入口風除室に設置。 8.20 横引き書架(7連)を西生田図書館事務室内に設置。 8.27 1階雑誌雑誌用壁面書架(単式8連7段)及び2階参考図書用書架(単式1連7段)増設。 9.17 蔵書点検(和書3~4門,洋参考図書 24日迄)。 9.22 1階新聞室内書架付机(2連),椅子2脚設置,及び2階参考図書コーナー地図台1台増設。 9.25 OPACネットワークプリンター利用サービス開始。 9.26 もみの木会(桜楓会)西生田キャンパス施設見学図書館案内。 9.28 1階,2階雨漏り修繕(10/19迄)。 10.28 司書課程「資料組織演習」授業実習図書館目録業務見学。 11.10 史学科同窓会西生田キャンパス施設見学図書館案内。 11.12 卒業アルバム用写真撮影。 11.27 EPICWIN デモンストレーション。</p> <p>3.6 平成10年度第2回全体回:西生田図書館開催時間検討 3.24 平成11年度増設機器用電源工事実施。</p>
2000 (平成12)	<p>4.1 西生田図書館ケーブル工事(2日迄)及びOPACレイアウト変更。 4.5 開館(9:10~),貸出開始。 4.8 1年次オリエンテーション スライド上映・西生田図書館案内。 4.9 1年次オリエンテーション 図書館の話 出淵館長。 4.21 Hubの据え付け調整(COMPAQ),OPAC用PC3台,事務用3台(1台はノートPC)設置。 4.28 OA機器環境設定(COMPAQ)。 4.30 大学院等の設置に関わる履行状況報告書(図書整備状況)原稿提出。 5.11 新入生向けOPAC講習会(以後27日迄5回開催) 5.25 川崎市立南菅小学校3年生西生田図書館来館見学。 6.15 参考用PC修理。 6.16 人間社会研究科博士学位論文受入。 7.8 スチール製ブックトラック1台2階参考用に設置。 7.26 夏季休暇中開館(9/13迄)。 7.30 玄関ホール天井より冷房機の結露による水漏れ発生,修繕。 8.23 4階遮光フィルム貼り及び書架増設(単式2連6段,6連6段,5連6段)。 9.16 蔵書点検(和・洋書0~2門,和・洋O.S.,和参考図書 24日迄) 9.22 1階エレコン床雨漏り修繕。 11.25 卒業アルバム用写真撮影。 2.22 1階利用者用複写機にカードベンダー機設置。</p> <p>4.5 開館,貸出開始。 4.8 1年次オリエンテーション スライド上映・西生田図書館案内。 4.10 1年次オリエンテーション 図書館長の話 出淵館長。 5.27 OPAC講習会(以後6/23迄7回開催) 6.6 古川商業高校西生田キャンパス施設見学図書館案内。 6.22 教員向け学外データベース説明会。 6.20 電算課調達。OA機器搬入。 6.28 川崎市立南菅小学校3年生西生田図書館来館見学。 6.30 OPAC2台増設。環境設定(COMPAQ)。 7.24 夏季休暇中開始(9/13迄)。 7.29 1階エレコン一部鍵取り付け作業(8/25も)。 8.7 1階エレコン床雨漏り修繕(31日迄)。 8.9 参考書架解体,組立,増連。 8.31 館長室木製書架設置。 9.18 蔵書点検(和書5~9門 26日迄),コンピュータ回線不通(22日迄)。 9.25 夜間開館週5回(月~金)。</p>

附記 「図書館だより」 90(1994.6.23発行)に掲載されている日本女子大学図書館関係略年表(1980.4~1994.3),「図書館年次報告」などを参考にして,1989年4月以降2000年9月までの西生田図書館略年表を作成した。
(永富尚子,中澤恵子)

平成12年度 夏期スクーリング開館について

鈴木 学

図書館では、7月26日(水)～8月30日(水)の間、スクーリング開館をしました。今夏も烈しい暑さが続き、雷の鳴った日も過去に比べても多かったようです。苛烈な気候の日々の中で勉学に取り組む姿勢は、これからの生涯教育社会を予感させます。

またスクーリングも終盤の頃、図書館内で床の張替工事が始まり、異臭や騒音・振動など環境が悪くなったことや、閲覧席が一部使用できなかったことがあり、利用者には不自由な思いをさせてしまいました。この場を借りてお詫びいたします。

スクーリング受講者数は昨年に引き続いて3,000名を割り込み、それに伴い、利用状況の数値は、入館者数、貸出冊数、複写枚数それぞれ前年を下回る値を見せています。

今年は初の試みとして、スクーリング生向けに図書館ツアーを行いました。この狙いは、初めて図書館を利用する際に、いくらかでも予備知識として知っておいてもらい、早く図書館に慣れ、資料をよりよく使えるようになってほしい、という点です。また例年、登録手続でカウンターに列を作って待つような事がよくあり、図書館員が忙しくなる一方、同時に図書館の使い方を尋ねられた場合、応対がおろそかになってしまうことがあります。そのようなことを避けるという狙いもありました。ツアーは7月26日(水)のスクーリング生向けオリエンテーションの日に3回開催しました。

30分程度の時間で、実際に建物の中を歩きながら図書館の使い方を説明しました。参加者はのべ40名。受講生数全体に比べれば少ない人数でしたが、概ね好評のようでした。広報が不十分だったことや、時間超過など問題点もいくつかありますが、これを機会に来年度以降もスクーリング生が早く図書館になじんでいただけるよう考えていこうと思っております。

また、授業の課題に対する資料の準備が図書館の課題の一つですが、今年も先生方との連絡がうまく取れず不便をおかけしました。引き続き解決策を探っていこうと考えています。

今年は資料への書き込みや線引が多く見受けられました。見た目の不快感もありますが、資料保存への影響も考えられます。また付箋紙が付けられたものも多くあり、書込みと同様に資料に影響があります。是非とも止めていただきたいことです。(館員・閲覧係)

参考係利用状況(質問処理件数)

年度(日数)	12(21)	11(15)	10(15)
一般学生・教職員	145	77	67
スクーリング生・その他	93	51	49
合計	238	128	116
1日平均	11.3	8.5	7.7

夏期スクーリング開館の利用状況

年度	12	11	10
開館日数	31	30	30
入館者数	15,883	16,784	15,441
1日平均	513	560	515
最高	660	699	646
最低	355	412	364
受講者数	2,866	2,902	3,014
登録者数	1,018	1,097	1,062
1日平均	33	37	36
貸出冊数	4,909	5,490	5,199
1人当たり	5	5	5
1日平均	159	183	173
最高	241	325	268
最低	100	86	98
貸出日数	31	30	30
複写枚数(2F)	62,067	67,269	64,553
1日平均(2F)	2,003	2,243	2,152
複写枚数(1F)	14,811	16,228	15,125
1日平均(1F)	478	541	515
一般学生・教職員その他の貸出	2,674	2,262	1,992
1日平均	87	76	66

編集後記 人間社会学部創設10周年、西生田図書館開館10周年を記念して、関係記事を盛り込みました。西生田の広いお山では、タヌキのほかにキツネも住んでいるのでしょうか。巻頭のカットと西生田図書館10周年のデザインは、前号に続いて西生田図書館課の橋本香織館員にお願いしました。(田口)